

「あきさかり」の特性と栽培管理のポイント

○「あきさかり」の特性

(あわみのり×越南173号 福井農試育成)

- 1 「キヌヒカリ」と比べて、
 - 高温による白未熟粒の発生が少なく、玄米の品質は優れる。
 - 収量性は、20%程度多収。
 - 耐倒伏性は、同程度。
 - 出穂期は4日程度、成熟期は6日程度遅い。
 - 稈長は5cm程度短く、穂数は20%程度多い。
 - 穂発芽は、しにくい。
- 2 「コシヒカリ」と比べて、
 - 食味は、同等で良食味。



あきさかり

キヌヒカリ



○栽培管理のポイント

- 1 分けつが多い品種なので、株間を広くとり、疎植栽培にする。
株間 24~22cm (45~50株/坪) 程度
※試験では、疎植栽培することで増収しています。

	稈長 cm	穂長 cm	穂数 本/m ²	倒伏 程度	収量 kg/a	同左比 %
疎植 (44株/坪)	75	18.2	400	0.0	64.3	106
標準 (55株/坪)	74	17.2	423	0.0	60.8	100

- 2 肥料は、慣行の施肥量(「キヌヒカリ」と同程度)。
- 3 茎数が多いために紋枯病が発生することがあるので、適宜防除を行う。
- 4 葉いもち病に対して「やや弱」のため、適期防除に努める。
- 5 白葉枯病に弱いので、常発地での栽培は避ける。

○県立農林水産総合技術支援センターでの試験成績 (石井町 H21~27年度の平均値)

作期	品種名	出穂期	成熟期	稈長 cm	穂長 cm	穂数 本/m ²	倒伏 程度	収量 kg/a	同左比 %	千粒重 g	品質	蛋白 含率 %	備考
		月.日	月.日										
早期 4月24日~26日播	あきさかり	7.18	8.26	70	17.9	402	0.1	59.6	114	21.2	4.2	7.5	栽培密度は16.7株/m ² 本田窒素施肥量は 基肥として0.5kg/a 種肥として0.3kg/a 倒伏は0(無)~5(甚) 品質は1(上上)~9(下下)
	キヌヒカリ	7.14	8.19	77	18.0	330	0.1	52.3	100	22.1	4.9	8.3	
早播え 5月13日~18日播	あきさかり	7.28	9.05	74	17.3	408	0.2	59.5	115	22.1	4.3	7.6	
	キヌヒカリ	7.24	8.29	80	18.1	332	0.0	51.7	100	22.2	5.2	8.3	
普通期 5月31日~6月2日播	あきさかり	8.08	9.14	74	17.4	366	0.0	58.5	123	22.1	4.0	7.5	
	キヌヒカリ	8.05	9.09	79	17.7	285	0.2	47.6	100	22.3	4.5	8.4	

徳島県・全農とくしま・徳島県米麦協会(平成28年11月作成)

平成28年度産地リスク軽減技術総合対策事業（高温耐性品種等導入実証事業）

水稻高温耐性品種「あきさかり」栽培暦

「あきさかり」の特性

（北陸159号（あわみのり）×越南173号 福井農試育成）

- 「キヌヒカリ」と比べて、
 - ・高温による白未熟粒の発生が少なく、玄米の品質は優れる。
 - ・収量性は、20%程度多収。
 - ・出穂期は4日程度、成熟期は6日程度遅い。
 - ・稈長は5cm程度短く、穂数は20%程度多い。
- 「コシヒカリ」と比べて、
 - ・耐倒伏性は同程度。
 - ・穂発芽はしにくい。
 - ・食味は、同等で良食味。
 - ・精米白度がやや高い。

栽培管理の目安

田植え	中干し開始	幼穂形成期	穂肥	出穂	成熟期
4月20日	5月29日	6月21日	6月24日	7月16日	8月23日
4月25日	6月1日	6月23日	6月26日	7月18日	8月26日
5月1日	6月6日	6月26日	6月29日	7月21日	8月29日
5月5日	6月9日	6月28日	7月1日	7月23日	8月30日
5月10日	6月13日	6月30日	7月3日	7月25日	9月2日
5月15日	6月17日	7月3日	7月6日	7月28日	9月5日
5月20日	6月21日	7月6日	7月9日	7月31日	9月8日
5月25日	6月24日	7月9日	7月12日	8月3日	9月11日
6月1日	7月1日	7月14日	7月17日	8月8日	9月14日

◆県立農林水産総合技術支援センターでの試験成績（石井町、平成21～27年度の平均値）

作期	品種名	出穂期 月日	成熟期 月日	稈長 cm	穂長 cm	穂数 本/m ²	粒重 kg/a	収量 %	同定比 %	千粒重 g	備考
早稲 4月25日播種	あきさかり	7.18	8.26	70	17.9	402	0.1	59.6	114	21.2	試験成績は16.7t/m ² 本圃収量は16.7t/m ² 穂数として0.5kg/a 穂重として0.3kg/a 粒重は0.16g～0.18g
	キヌヒカリ	7.14	8.19	77	18.0	330	0.1	52.3	100	22.1	
早稲 5月15日播種	あきさかり	7.28	9.05	74	17.3	408	0.2	59.5	115	22.1	
	キヌヒカリ	7.24	8.29	80	18.1	332	0.0	51.7	100	22.2	
普通稲 6月1日播種	あきさかり	8.08	9.14	74	17.4	366	0.0	58.5	123	22.1	
	キヌヒカリ	8.05	9.09	79	17.7	285	0.2	47.6	100	22.3	

- ◆「徳島県産あきさかり」の認知度向上により消費を拡大するため、農産物検査を受けましょう。
- ◆共同販売により、有利に販売しましょう。



月 旬	4月			5月			6月			7月			8月			9月	
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬
主な 作業	早期 4月25日播種	播種	25日 田植え 箱施用				1日頃 中干し	26日頃 穂肥		18日頃 出穂		19日頃 落水	26日頃 成熟期				
	早植 5月15日播種		播種	15日 田植 箱施用			17日頃 中干し	6日頃 穂肥	28日頃 出穂		30日頃 落水	5日頃 成熟期					
	普通期 6月1日播種			播種			1日頃 田植 箱施用	1日頃 中干し	17日頃 穂肥		8日頃 出穂	7日頃 落水	14日頃 成熟期				

栽培管理のポイント

- 1 坪当たり45～50株の疎植栽培にしましょう。
- 2 収穫期はキヌヒカリより6日程度遅くなるので、落水時期に注意してください。

土づくり

- 生わら、堆肥等は早くすき込み、田植えまでに良く腐熟させましょう。
- 高温や倒伏に強い根盤をつくるため、なるべく深く耕しましょう。
- ケイ酸質を中心とした土づくり資材を施用し、地力を上げます。

施肥

キヌヒカリと同程度の施肥量とします。

- 分施肥体系
 - ・基肥 窒素 5kg/10a
 - ・穂肥 出穂前20～23日頃を基準に 窒素 3kg/10a

肥料の種類	施用量(kg/10a)		成分(kg/10a)		
	基肥	穂肥	窒素	リン酸	カリ
尿素系高濃化成 (16-16-16)	30	-	4.8	4.8	4.8
窒素カリ化成 (16-0-16)	-	20	3.2	-	3.2
成分量合計			8	4.8	8

- 基肥一発肥料体系
 - ・窒素 7kg/10a

肥料の種類	施用量(kg/10a)		成分(kg/10a)		
	基肥	穂肥	窒素	リン酸	カリ
基肥一発肥料 (18-14-17)	40	-	7.2	5.6	6.8
成分量合計			7.2	5.6	6.8

- 施肥上の留意点
 - ・倒伏すると登熟が低下して減収を招くので極端な多肥栽培は避けてください。
 - ・野菜跡など残効がある場合は施用量を加減してください。

育苗・田植え

- 10a当たり播種量を3～4kgとして種子を準備します。
- 箱当たり120～150g（乾もみ）×20箱
- 種子消毒・床土消毒の実施
- 播種密度：条間30cm×株間24～22cm（45～50株/坪）程度とします。
- ※密植すると、軟枯病が発生しやすくなります。
- 植付本数は3～5本/株とします。

水管理

キヌヒカリより出穂期、収穫期が遅くなるので、生育に合わせた水管理が必要です。

- 移植後はやや深水管理、活着したら浅水管理をしましょう。
- 移植後3週間日頃から中干しまでの期間は、間断かん水をお願いします。
- 有効茎が確保できたら中干しをします。
 - ・5月播では田植後30～35日を目安に。
 - ・田面に小さなひび割れが生ずる程度。
- 中干し後は間断かん水が基本です。
 - ・出穂・開花期の水不足は、体内水分の乱れによって開花や受精に影響する。
- 玄米の充実を確保するため、成熟直前まで水を切らさないようにしましょう。
 - ・落水は、土壌条件や降雨等を踏まえて調整してください。
 - ・収穫期はキヌヒカリより6日程度遅くなるので、落水時期に注意してください。

収穫

- 刈取りは、出穂後の積算温度で約1,100℃、日数にして約38～39日が適期です。但し、高温で推移する年は積算温度が小さく、日数が短くなる場合があります。
- 青米初率10～15%程度（黄色い筋が85%程度）であることを確認します。
- 穂軸が熟れるのを待っていると、刈り遅れになることがあります。
- キヌヒカリに比べ穂発芽はしにくいですが、コシヒカリと比べるとしやすいため、適期刈り取りをしましょう。

乾燥・調整

- 急激な高温乾燥、過乾燥、肌ずれ、胴割れに注意します。
- 整粒歩合は85%以上とします。
- 玄米水分は14.5～15%とします。
- 玄米品質向上のため、選粒機の網目は1.8mm以上にしましょう。

病害虫対策

分けつが多く、株元の風通しが悪くなり易いため、軟枯病の発生に注意が必要です。

- 軟枯病の常発田では、軟枯病に登録のある箱施薬を必ず行いましょう。発生が確認されれば、出穂前に防除を行います。
- 葉いもちに対して「やや弱」のため、常発田では、いもち病に登録のある箱施薬を行います。上位葉に病斑が多い場合は、出穂前に防除を行います。
- 白葉枯病に弱いため、常発地での栽培は避けましょう。
- 斑点米の原因となるカメムシ類の発生に注意しましょう（周辺雑草・隣接水田）。